

分校 令和7年度 山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針

山梨県立富士見支援学校旭分校 校長 雨宮 靖子

本年度の重点目標	1 児童生徒の病状等に配慮しながら、義務教育段階における学習空白を補完するための教育課程の編成と実施に努め、前籍校への復帰や進路実現を図る。
	2 前籍校や病院、関係機関等との連携の充実を図りながら児童生徒等の支援に努める。また、病弱支援学校としてのセンター的機能の発揮に努める。
	3 個に応じた分かる喜びを実感できる授業を行うことにより、学力の向上を図るとともに、達成感や自己肯定感を育む
	4 基本的な生活習慣の確立と自立心の育成に努めるとともに、人との関わりを通して社会性を培うことに努める。
	5 児童生徒の心に寄り添いながら信頼関係を築き、人間としてよりよく生きていくために必要な規範意識の醸成に努める。
	6 教育活動全体を通じて、自他の命を尊重する意識を高め、思いやりの心や向上心を育む。また、学校のいじめ防止対策基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対処に努める。

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価							
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	年度末評価(2月13日現在)			
				方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	児童生徒の病状及び段階に応じた教育課程の編成や実施	一人一人に応じた教育課程の編成と実施 ・段階的な教育課程の確立	合理的配慮を踏まえた指導計画や指導の充実 ・個別の教育支援計画、個別指導計画の作成	児童生徒・保護者・教職員アンケート、学部会での検証(満足度80%)	初期、適応、通常の段階別指導を取り入れ、個々に応じた教育課程を実践した。多くの児童生徒は学校での生活が楽しいと評価している。保護者からは個々に応じた教育課程に対し高評価をもらった。	A	段階別指導を継続する。個別の指導計画の作成では、病弱教育における合理的配慮を明確にし、注1) BLENDを導入する中で、個別の指導計画の記載方法について検討や工夫を行っている。 注1) BLENDは統合型校務支援システムのことを指し、出席や指導計画などの管理ができるシステム
2	前籍校や病院、関係機関等との連携と病弱支援学校としてのセンター的機能の発揮	前籍校、病院との関係機関などとの連携 ・医療と教育の連携に係る会議等の実施	病弱特別支援学校としてのセンター的機能の啓発 ・教育相談、訪問支援、研修支援等の充実	児童生徒・保護者・教職員アンケート、学部会での検証(満足度80%)	医教連絡会議、医教情報交換会、病棟連絡会等で学校と病院が情報共有した。センター的機能の発揮は支援地域の小中学校へ訪問支援(4回)や研修支援(2回)を実施した。多くの方に病弱教育について知ってもらう機会になった。また地域の学校とつながりを持つことができた。	B	センター的機能の発揮は、支援地域を中心に継続して展開していくことで学校の教育活動の充実を図っていききたい。R7よりサポート学習が開始されたので、児童生徒にとりより良い教育と支援について校内での整理や関係機関と連携していきたい。
3	個に応じた分かる喜びを実感できる授業や学力や向上に向けた取り組み	ICT機器を活用した授業実践の蓄積 ・ICT研修を含めたICT機器の活用	校内研究や授業観察等を通じた授業改善 ・授業観察等の設定	児童生徒・保護者・教職員アンケート、学部会での検証(満足度80%)	児童生徒からの評価で「勉強ができるようになった」「チャレンジしようと思った」等前向きになった意見をもらった。相互授業参観、異校種授業参観、ICT研修等の取り組みを通して授業改善に向けた取り組みを実施した。ふれあい活動など取り組みが児童生徒の主体的を生むように工夫した。	A	教員個々のスキルを高めることができたが、さらに教員間で授業例の情報共有を行うことで授業力が向上できるよう取組の工夫が必要である。また、相互授業参観や自主研修を通じて継続した授業改善を図りたい。
4	基本的な生活習慣の確立と自立心の育成、及び人との関わりを通じた社会性の修養	研修を通じた専門性や授業力の向上 ・校内研修会の設定	基本的な生活習慣の確立 ・教職員による児童生徒の指導及び家庭との連携	児童生徒・保護者・教職員アンケート、学部会での検証(満足度80%)	講師招聘研修会を年間3回実施し、児童生徒の実態把握の向上につながる取り組みを積極的にした。講師から生徒の実態把握の考え方や自己肯定感の高め方について学んだ。キャリアパスポートの作成について学校では転入時や行事等を通じて自分を振り返る活動を取り入れた。児童生徒の情報共有について保護者との連携が密になるよう心がけた。	A	児童生徒が自己を見つめるとともに特徴を理解するため、キャリアパスポートを作成しているが、進路だけでなく自信の変化や成長などがわかるよう工夫した活用をしていきたい。家庭との連携では、送迎時や電話連絡、懇談等を通して児童生徒の様子についての情報共有や連携を密にとって行きたい。
5	児童生徒の心に寄り添った活動による信頼関係の構築と規範意識の醸成	道徳活動、集団活動を通じた規範的意識の醸成 ・特別な教科道徳や集団授業を通じた社会性の育成		児童生徒・保護者・教職員アンケート、学部会での検証(満足度80%)	概ねの児童生徒がルールや注意について必要性を理解している。注意について、児童生徒の一部から「どちらともいえない」との意見もあった。教職員からは、児童生徒にとり、人のかかわりの指導の重要性を感じている。	A	社会経験が乏しいと思われる児童生徒へ集団生活や社会を意識した気持ちの醸成が必要である。他者を尊重する意識を向上させるために様々な活動や話し合いの工夫を図ることで課題を達成したい。
6	教育活動を通じて、自他の命を尊重する意識の向上に向けた取組	学校のいじめ防止対策基本方針に基づいた取組 ・いじめ等に関する組織的な対応と取組	道徳活動の充実に向けた取組 ・特別な教科道徳の充実	児童生徒・保護者・教職員アンケート、学部会での検証(満足度80%)	いじめの基本方針をPTA総会の際に説明した。多くの教職員からは組織的に取組が行われていると評価を得たが、いじめに対する取り組みについて一部から不十分との意見もあった。	B	いじめ防止の取り組みについてアンケートだけでなく、道徳などの授業や学校の様子をブログや便りなどを通じて知らせしていきたい。
7	業務の効率化に向けた取り組み	児童生徒に対する効果的な教育活動の取組 ・自己研修等の取組と授業改善	業務の効率化と定時退庁日の定着 ・ホワイトボードの活用	教職員アンケート、学部会での検証(満足度80%)	児童生徒の理解や指導の向上に向けて多くの教職員が自主的な研修を実施した。定時退庁日の徹底は教職員に浸透しているものの、呼びかけ不足により完全実施は不十分だった。	B	業務の効率化を考えていくうえで、確認・連絡の徹底の必要がある。個々の教員が業務について取り組みの目標を目指して取り組めるようにしていく。

学校関係者評価	
実施日(令和8年 2月24日)	
評価	意見・要望等
4	・生徒に合わせた授業が行われていて、とてもありがたい。分校の取り組みを継続してもらいたい。センター的機能は定着してきたので、さらに拡大し不登校対策につながるとうい。精神科通院中の児童生徒が多いので、本校と比較して段階の刻み方がより難しいだろうと想像している。 ・引き続き前籍校との連携を図る中で、評価の妥当性に関して議論を深められるとうい。 ・児童生徒の学習に対するニーズを具体的に把握し、授業内容・方法を工夫している様子がうかがえる。 ・段階別指導の利点を教員間で共有しながら今後の改善に向けて検討していくことが望まれる。 ・AI及びICT利活用に向けて、情報活用能力の把握やモラル教育等を充実させていくことが課題である。 ・全ての項目に該当するが、生徒の実態を知る情報や機会がなく、また生徒へのアプローチが具体的にわからず、評価を数字で表すのはかなり難しい。また、専門用語もあるのも、さらに困難を感じた。検討をお願いしたい。BLENDとは？またそれが教育課程の編成や実施にどう結びつくのか知りたかった。
4	・特別支援学校の存在をまずは知ってもらい、選択肢として想起してもらいやすくすることが必要と思う。 ・今後も、よりよい連携が図られていくことを期待している。 ・センター的機能として積極的に活動している。ぜひ、引き続き地域の学校における実態把握と支援ニーズの検討を行っていただきたい。 ・保護者への情報提供方法や頻度等について、改善に向けた検討を行う必要がある。 ・転籍後の継続支援(サポート学習)に向けて、転籍校や関係機関との関係構築を丁寧に行うことが望ましい。
4	・子どもたちがのびのび学校生活をしているのがわかった。これからも喜びを感じられる取り組みを継続して欲しい。 ・学習に限らず、まずやってみる精神を作ってもらうことが大切だと思う。 ・かつて廃止された経緯があるサポート学習が復活したことは、嬉しいと感じている。再廃止を避けるという意味で、サポート学習の成果と課題について、数年にわたって整理していけるとよいと思う。 ・学外での体験活動や外部関係者との関わりは、児童生徒本人にとって負担がかかる一方で、多様な環境での経験は彼らの成長に重要な機会となる。児童生徒本人が望む活動や支援について検討していくことも必要といえる。 ・どんな取り組みがわかる喜びにつながるか、自己肯定感や達成感の定着やICTについて知りたいと思った。
4	・富士見支援学校にくる子どもたちは自己肯定感が低く、自立以前の問題があるが、富士見に通うことで自信をつけ、次のステップに進もうとする意欲を身につけることができていると思う。 ・本校と比較してお子さん自身が自分と向き合い、あり方を考えるのがより難しく、かつ大切だと思う。 ・在籍期間が短いもののキャリアパスポート作成は大変だと思うが、特別支援学校に在籍しているからこそ作成できる解像度の高い資料が、今後も作られていくことを期待している。 ・進路指導においては、先例や先輩の姿の紹介が継続されることが望ましい。 ・児童生徒の日々の様子に関する保護者への情報提供の充実にもむけた改善が望まれる。 ・進路指導においては、先例や先輩の姿の紹介が継続されることが望ましい。 ・色んな所に自己肯定感という語句が表記されている。その定義の実現は難しいが、今ここで生きていてよかったという実感、ワクワクドキキするよという瞬間が生徒にも職員にも大事な学校であるように思う。
4	・他の学校より生徒と先生との関係に近い気もするが、それで良いと考える。 ・普段から関わりのある大人(この場合は主として先生方)が信頼できるということが大前提となるため、先生方が尽力されている。 ・“心理的事実の許容”と“客観的事実の指導”の区別を、今後もしっかりと踏まえて指導していただければと思う。 ・教職員の努力により、児童生徒にとって必要である「信頼できる他者の存在、関わり」の機会が提供されている様子がうかがえる。引き続き、多様な他者との関わりを通して、児童生徒が安心感が得られ、他者との信頼関係を構築する機会が保証されることが望まれる。 ・ここに寄り添うには、生徒が心をリセットし、自由にすることも必要かと思われる。 ・十代の自殺と不登校が増え、学校教育が問われている社会情勢。いわゆる普通の学校に当てはまらないかった子どもたちに、新たな学びの場、回り道や道草の意味を模索してほしと心から思う。
4	この目標設定自体が素晴らしいと思う。希死念慮を抱える生徒が多い中、自分を含めた命について考えてもらいたい。 アンケートでは正確に答えられない場合もあると思うので、それだけでは評価できないと思う。 ・今後も引き続き、丁寧な取り組みをお願いする。
4	・なかなか難しいが、先生が元気がないと子どもも元気が出ないので、ぜひ良い方法を模索して欲しい。 ・先生方が健康であることが、お子さんたちが健やかに成長するための必要条件になると思います。 ・業務の効率化が前面に出ると、場合によっては全体の士気低下を招く。引き続き「学校としての包括的な教育サービスの向上」を図ることを第一義とすることに留意していただければと思う。「教職員アンケート結果の分析を行い、今後の対応にむけた検討が必要である。 自主的な研修というのは面白そうだ。いろいろな人の意見が言いやすく、結果が共有できる職場であってほしいと思う。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。